

つながる いのち 朝来市 糸井の大カツラ

わたしたちは、遠足で、糸井の 大カツラの 木を 見に行きました。
山の 中を 歩いて いくと、大きな 木が 見えて きました。

「わあ、すごい。大きな。」

「でっかい 木やなあ。」

木に 近づいて みると、一本の 木では ないことに 気づきました。何本もの 木が あつまつて いました。

「なかよく かたを 組んでる みたいやな。」

みんなが、大カツラの 木を 見て おどろいて います。わたしは、

「先生、これ、何本くらい あるん？」

と 聞きました。

「八十本くらいかしらね。」

「そんなに たくさん。」

「中に入つて みましようか。」

先生に さそわれ、わたしたちは じゅん番に 木の中に入つて みました。中は、子どもが 十人くらい 入る ことができる 広さです。

「わあ、広い。まるで おうち みたい。」

わたしを かこむように 大きな 木が たくさん はえています。

「ひこばえと いうのよ。」

「ひこばえ？」

「そうよ。まん中に 一番 さいしょの 木が あつて、それは なくなった木なのよ。その 木を かこむように めが 出てくるの。それを ひこばえと いうの。もとの 木の えいようを もらつて そだつて いくの。」

「リレー みたいやね。」

「そのとおりね。いのちの バトンタッチは 二千年も つづいて いるの。」

「二千年も。すごいなあ。」

わたしは、木の 中から 空を 見上げました。

お日さまに てらされて きらきら 光る はっぱが わたしたちに 話しかけて いるよ
うでした。